



りゅうしん けいすけ  
**龍神啓介**

しみん  
**市民クラブ**

**保育所入所選考に関するAIの活用の考えは**

**問** 保育所の入所選考にかかる作業は時間的、人力的に多くのリソースを費やすことになる。

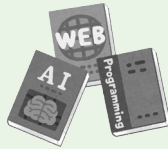
そこで、AIを活用してみてはどうか。AIの活用によって、作業量の軽減を図るだけでなく、利用者希望の最適化をより追求することができると思う。

全国では実証実験を行うとした自治体、既に導入を決めた自治体もあるが、津市における導入の是非を問う。

**情報収集をしながら導入の是非を考えていく**

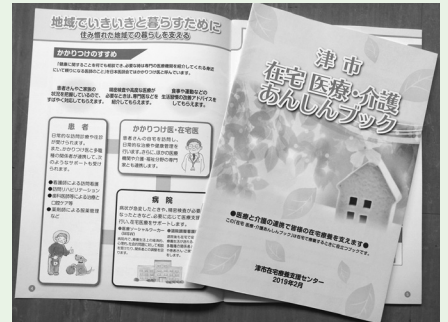
**答** 2018年度に導入した草津市や2019年度に実証実験を行う予定の桑名市から聞き取りを行った。その中で、事務の効率化とともに調整結果の迅速化が図れるシステムであることに大変期待はしているが、特別な支援が必要な子どもなどの利用調整には、別途、柔軟な対応が必要であると聞いている。

今後、それらの実証実験の結果に対する課題や評価の情報収集を行いながら、システム等に関する費用についても整理し、導入の是非について考えていく。



●その他の質疑・質問●

- 証明書等のコンビニ交付サービスについて
- 教員支援員と部活動指導員の増員について
- かかりつけ医の普及について



▲全戸配布された「津市在宅医療・介護あんしんブック」



あづみ  
**安積 むつみ**

こうめいとうぎいんだん  
**公明党議員団**

**心のバリアフリーについての考えは**

**問** 障がいのある人やない人、大人や子ども、高齢者や妊婦、赤ちゃんを連れた人や外国人などが共生する社会の中で、差別・偏見をなくし、皆にとって使いやすいデザインにしていくことが、ユニバーサルデザインのまちづくりである。道路や施設等のバリアフリー化とともに、相手の気持ちに寄り添う心のバリアフリーも必要である。どのように考え、取り組むのか。

**まちづくりに大切な理念、今後も反映させる**

**答** ユニバーサルデザインは、まちづくりに必要不可欠な理念であり、津市総合計画にもユニバーサルデザインのまちづくりの推進を位置づけている。まずは職員がユニバーサルデザインの考え方を理解して行動することが大切であるため、全ての職員に研修を行っている。

心のバリアフリーを市全体に浸透させるには、特に子どもの頃から身近なものとして学び理解していくことが大切であると考えている。小中学校での総合学習等を活用し、障がい者や高齢者と実際に触れ合う出会い学習や人権学習、ユニバーサルデザイン講座の実施などで浸透を図っている。

●その他の質疑・質問●

- 特定健康診査について
  - 健康マイレージ事業の現状と課題は
  - 受診率向上に向けての施策は
- 肺がん検診の受診率向上への取り組みは
- 避難所である学校体育館へのエアコン設置計画を立てるべき
- 障がい者地域生活支援拠点の早期整備を など



▲トイレにおけるユニバーサルデザイン（UD）の例